

第42回日本重症心身障害福祉協会・東日本施設協議会

事務長 平山 信夫



11月5日（木）、6日（金）の2日間、第42回日本重症心身障害福祉協会・東日本施設協議会が港区のアジュール竹芝で開催され、当センターからは柳瀬院長と平山が参加しました。

本協議会は、東日本地域の重症心身障害児者施設で構成されるもので、3つの地域ブロック（北海道・東北、関東、中部）に所在する施設が毎年交代で開催を担当しています。今年度は、関東ブロックの東京都の9施設が当番となって協議会を開催し、東日本地域60施設の理事長、施設長、看護部長、事務長など、約160名の参加がありました。

初日は、開会式の後、「緩和医療について」と題して、千葉徳洲会病院緩和ケア内科部長渡邊敏氏の特別講演がありました。がん患者の苦痛は、身体的な苦痛に限らず、精神的、社会的な苦痛もあり、全人的に捉えてケアする必要があること、緩和ケア病棟は限られており、今後、在宅も含めて受け皿をどうすべきかが課題であることなどが話されました。

その後、各施設から提案のあった議案の協議、各部会の活動報告、報酬改定の検討状況報告等があり、各施設の状況に応じた意見交換、質疑が行われました。

次に、調査研究報告として、「秋津療育園園生の麻疹、風疹、ムンプス、水痘ウィルスに対する抗体保有状況調査」、「協会認定重症心身障害看護師研修・関東甲信越地区の取り組みについて」の2題が報告されました。

2日目は「重症心身障害児・者の豊かな生涯とターミナル」をテーマとしたシンポジウムが行われました。初めに、数年前にお子様を亡くされ、現在は施設のボランティアをされている保護者の方から、出生から亡くなるまでの経過、ご両親の思いなどをお話いただきました。続いて、東京小児療育病院の小畑作業療法科科长から、高齢の重症心身障害者に対する作業療法について、在宅療育支援センターの鈴木部長から、在宅の重症心身障害児者の訪問看護について、東大和療育センターの倉田院長から、末期を迎えた重症心身障害児者について、それぞれ症例や現場での取り組み状況、課題提起などの発表があり、質疑が行われました。

最後に、来年度の本協議会が、11月に神奈川県で開催されることが確認され、閉会となりました。

全体を通じて、重症心身障害児者施設が現在直面している課題について、様々な視点から活発な質疑、意見交換、情報提供が行われ、有意義な会議でした。



秋の企画「秋の祭り」

指導科 小峯 孝男

11月18日（水）毎年恒例の「秋の祭り」を開催しました。残念なことに今年は、当日晴天とはならず、曇天で今にも雨が降り出しそうな空でしたので、雨天時のプログラムでの行事となりました。場所は、通所ロビー周辺での対応となりました。それでも、たくさんの利用者に来ていただき、大いに盛りまりました。今回も秋の味覚「焼いも、焼きりんご」を賞味しながら、感覚刺激コーナーでは野菜のスタンプで絵（ひゃくまんさん）を完成させる等して、秋の一日を楽しみました。（「ひゃくまんさん」とは石川県の郷土玩具で縁起物のキャラクターのこと。）

焼いも、焼きりんごを食べている時の利用者の皆さんの表情は、笑顔がこぼれるようでした。

今年は、天候の都合で、外では出来ませんでした。利用者の皆さん楽しんでいただけたでしょうか？来年は是非、天候に恵まれ外で行えればと願っています。



大成功！くぬぎ分教室音楽鑑賞会

くぬぎ分教室 伊東 宏一

しっとりとした「もみじ」、荘厳で朗々とした「メッセージ(ホルスト作曲・ジュピター)」、軽快なリズムで合奏された「リベルタンゴ」etc・・・11月17日の訓練室は、ミュージック・ボックスの皆さんの歌や演奏を聞くため、たくさんの方が集まり、素敵な午後の一時を過ごすことができました。

プログラムは季節の歌、唱歌、ポピュラー、映画やアニメの主題歌と続き、最後は「上を向いて歩こう」が登場、あらゆるジャンルの歌を聴くことができました。「と・も・だ・ち」や「手をつなごう」などミュージック・ボックスのオリジナル曲や分教室からリクエストした「ね」「この星に生まれて」なども歌っていただき、1時間が「あっ」という間に過ぎました。

現在、くぬぎ分教室に在籍している生徒はミュージック・ボックスのコンサートを鑑賞して3年目になります。成長と共に鑑賞の仕方が少しずつ変わってきているようです。特定の楽器音（チェロ）が聞こえてくると微動だにせず聴き入っている生徒、知っている歌が聞こえてきた時に表情を変化させた生徒・・・など、それぞれがそれぞれの様子で興味や関心、驚きを表現しながら音楽鑑賞会を楽しむことができました。

挨拶係やお礼の言葉、会場装飾やプレゼント作りなど、普段の学習の成果もたくさん発表して、大成功！！の音楽鑑賞会でした。



全国重症心身障害児者施設職員研修会 栄養士・調理師コースに参加して

栄養科 宮木 絹子

10月14日（水）～16日（金）に全国重症心身障害児者施設職員研修会 栄養士・調理師コースが大阪で開催され、鶴見科長と参加しました。

3つの講演はいずれも興味深い内容で、『食物アレルギーにおけるパラダイムシフト（革命的意識改革）』では、単なる食物アレルギーではなく中学生にみられる「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」という非ステロイド性抗炎症薬により増強するアレルギーなど近年のアレルギー

動向、『障害児者の摂食嚥下リハビリテーション（摂食指導）』では身体発達と摂食障害のメカニズム、『災害についての心構えについて』では阪神淡路・東日本大震災の被害状況の違いや、災害時優先順位の明確化など具体的な講義がありました。

また、今年の研修は例年と異なり、学会様式で行われました。東京・神奈川ブロックの各施設の栄養士と調理師が別々の会場で1題30分の事例発表を行い、参加者は内容を選択して受講する形式でした。鶴見科長は「適切な食形態の食事提供に向けて」、私は「素材の特性を生かした食品の調理・加工について」の事例発表を行いました。

今年は、東京・神奈川が担当ブロックであったため、担当ブロックの栄養士や調理師と一緒に私も企画から運営、司会、発表まで携わりましたが、他の施設の状況もわかり、とても有意義な研修でした。



秋の総合防災訓練

事務室 庶務係担当



10月27日（火）府中消防署栄町出張所署員の指導により秋の総合防災訓練を実施しました。この防災訓練は、日頃からの防火意識を高め、センターでいつ何時災害が発生しても円滑に防災対策が行えるよう職員の心構えを養い、防災に対する組織体制を整備することを目的に毎年実施しています。今回の訓練は、昼間帯に多摩直下の震度6弱の大規模地震が発生、それに伴う火災災害を想定したものでした。

地震対応訓練に続き、2-B病棟での火災を想定した消火・避難訓練を行った後、消防署員による救助訓練、防災教育を行いました。防災教育では、参加者に起震車による地震体験、濃煙体験など実際に災害を疑似体験してもらうことで、防災意識をより一層高めてもらいました。職員の中には初めて起震車を体験した方もいて、「こんな大きな揺れが実際に起きたら、冷静でいられるかわからないです。」と地震の恐ろしさを実感したようでした。

災害の規模が大きくなればなるほど、「自助（自分の身は自分で守る）・共助（力を合わせて助け合い）」が大切になってきます。職員一人ひとりの防災意識とセンターとしての防災組織の体制整備を今後とも高めていくことが重要であり、来年もこの防災訓練は実施していきます。今後とも多くの職員が参加し、防災意識をより高められる防災訓練にしたいと思えます。



メンタルヘルス講習会

事務室 古本 恭子

10月23日(金)あじさい館において、東京都共済組合こころの健康相談室の精神保健相談員2名を講師に「平成27年度メンタルヘルス講習会」が行われました。

講習ではまず、職員の病気休暇者数が年々減少しているにも関わらず、精神疾患が理由で休む職員数は増加傾向にあり、誰もが精神疾患になりうるということの説明がありました。そして、ストレス反応に気付くためのサインやストレスとの付き合い方が例示され、お酒やギャンブルで気持ちを紛らわせることは逆効果であるという注意もありました。

その後、「復職者との関わり」についてのDVDを視聴し、復職者に対する対応の良い例、悪い例が紹介されました。叱咤激励は負担になりかねないが、共感や支持する言葉、自然な声掛けは大切であるということが理解でき、参考になったという声が多く聞かれました。

最後にリラクゼーションとして、座ってできる「筋弛緩法」「呼吸法」「ストレッチ」を教えていただきました。

今回教わったことを日常生活に取り入れ、ストレスとうまく付き合っていきたいと思います。



認定看護師紹介

第1回 摂食・嚥下障害看護

当センターには、認定看護管理者1名と、専門分野の認定看護師4人が在籍しています。

今月から5回にわたり、活動内容を紹介していきます！

摂食・嚥下障害看護 認定看護師 谷野 町子

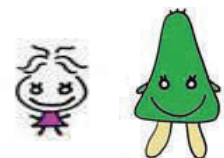
私は、摂食・嚥下障害看護認定看護師になって「食べる」という当たり前の行為が複雑で巧緻であるということに改めて感じました。『食べ物を認識し(認知機能)口に運ぶ(運動機能)、開口し口唇でこすり取る(口唇閉鎖)、舌で押しつぶしたり臼歯に乗せ、顎・頬・舌の巧みな連携によって噛み砕かれ(咀嚼)舌の動きでまとめられ(食塊形成)喉頭が挙上し喉頭蓋が気道に蓋をする(喉頭蓋閉鎖)、食道が開き食塊が送り込まれる』大まかではありますが、このように「食べる」ことを順を追って見ていくと、利用者の方たちがいかに難しい状態で食事をされているかがよくわかります。その困難さを少しでも緩和し、安全で楽しい食事ができるように認定看護師として学んできたことを活かし支援していきたいと思っています。

東京都永年勤続感謝ほか伝達式



11月16日(月)「東京都永年勤続感謝状」が23名に、「東京都社会福祉協議会会長感謝状」が7名に、「公益社団法人日本重症心身障害福祉協会永年勤続者表彰状」が14名に授与されました。

今後ますますのご活躍を期待しています。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>